
大乱闘スマッシュブラザーズX 破壊の化身と希望の戦士たち

ピノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大乱闘スマッシュブラザーズX 破壊の化身と希望の戦士たち

【Nコード】

N2333Y

【作者名】

ピノ

【あらすじ】

スマブラ？のオリジナル小説です。

クレイジーハンドが狂いだします。

序章 くタブーの復活（前書き）

警告

ここではスマブラXのオリジナル小説を書いています^^
隠しキャラなどのネタバレがあるのでネタバレを好まない方は
注意してください。と言うより亜空の使者をクリアしていない、
あるいは知らない方が呼んでも分からないと思います…。
マニアックですいません…。

序章 くタブーの復活く

ここは何も無い闇の空間…

ニヒルで暗く、ただ闇が広がる寂しい空間…

そこに今何かが現れようとしていた…

「うぐあああああああああああああ！！」

「うう… やつと我らの部屋へ戻ってこれたか…」

「何とかなったようだな…」

突然その闇の空間にどこからとも無く白い右手と左手が現れた。

右手が創造の化身マスターハンド、左手が破壊の化身クレイジーハンドだ。

そう、この闇の空間は彼らの部屋だったのだ。

「何も無いな…」クレイジーハンド

「タブーめ…我らの部屋を亜空間にし、世界征服をもくるむとはふざけた真似を…」マスターハンド

「ともかく復元しよう。さあ、やってくれ」クレイジーハンド

「ああ。」マスターハンド

そう言うとマスターハンドはパチりと指を鳴らした。

パアアアアアアアア！！

すると辺りがまばゆく光り、彼らの部屋が復元された。

…とは言っても平らな台の様なものが現れただけだったけど…

「見事だ。力は衰えていないようだな…」クレイジーハンド

「あの程度のことと衰えるほど弱くは無い。我らは2体で1体だ。創造の化身である我が必要なものを作り、代わりに必要の無いものをそなた（クレイジーハンド）が破壊する…。どちらかが欠ければ世界のバランスが崩れてしまう。やはりあの程度のこととやられる訳にはいかないのだ。…勝てなかったのは事実だがな…」マスターハンド

「はっはっは、そうだな。ん？なんだこれは？」クレイジーハンド
クレイジーハンドは台の上に見覚えの無い青黒いエネルギーの玉を見つけた。

「タブーが残していった物のようだ。今度はお前の番だ。お前の力を見せてもらおう」マスターハンド

「うむ。」クレイジーハンド

そう言うとクレイジーハンドはその玉を握りつぶした。…すると

「……………我を目覚めさせたのはお前か。」

どこからか声が聞えて来た。

だがその束の間、クレイジーハンドが突然黒いオーラに包まれた。

「ぐあああああ！！！！」クレイジーハンド

「な、なんだ？まさか・・・タブーか？」マスターハンド

「フッフ・・・そうだ。我の名はタブー。一度は世界征服を試みたが失敗に終わったのは言うまでも無い。

だが！この破壊神の体に乗っ取った我に敵などいない！！

さあ第二の世界征服の始まりだ！！覚悟しろ！！」クレイジーハンド

「くっ・・・。おのれ・・・おのれえええええ！！」マスターハンド

マスターハンドは気合をこめてクレイジーハンドへ殴りかかった。

しかし・・・

「ふっ。無駄なことを。」クレイジーハンド

そう呟くとクレイジーハンドは黒いオーラをマスターハンドに絡ませた。

「何・・・？」マスターハンド

「うううう・・・ぐはっ！！ 何故だ？力が抜けていく・・・創造の化身としての力が抜けていく・・・そんな、バカなあ！」マスターハンド

「甘いな・・・。我には敵わないと言ったはずなのに、自ら突っ込んでくるとはな。

お前の力はもらって行くぞ。ハッハッハッハッハ！！」クレイジーハンド

そう言うとクレイジーハンドはどこにあるのやら闇の空間の出口からどこかへと出て行った…

「バカな…」マスターハンド

そしてマスターハンドはそのまま何も出来ずにぐったりと気を失ってしまった…

序章 くタブーの復活く（後書き）

読んでくれてありがとう。

これからも連載していきます。

つまらなかったらコメントね

第1話 く平和な戦いからの異変く（前書き）

ここから本格的にこの小説が始まります。

お楽しみに！！

第1話　〜平和な戦いからの異変〜

「さあ、始まるようですね」

「そうね、楽しみだわあ」

ここは空中に浮かぶスタジアム。

このスタジアムの観客席で2人の女性が楽しげにお喋りをしていた。

白いドレスの姫ゼルダとピンクのドレスの王女のピーチだ。

彼女らは今から始まる試合を心待ちにしていた。

「私はマリオに勝って欲しいわあ。何度もお世話になってるんだもの。」ピーチ

「あら、わたしが応援するリンクも負けてないわ。」ゼルダ

「どちらが優勝するか楽しみね」ピーチ

そんな楽しいお喋りの途中ゼルダが突然顔をしかめて言った。

「…もうあんなことは起こらないわよね？」ゼルダ

「あら、ゼルダだったらそんなこと心配してるの？もう亜空軍は滅びたのよ？それにタブーとの戦いの後にあの大きな手のカミサマが私たちみんなに最後の切り札の源のスマッシュボールをくれたのよ？あれがあればたとえお月様が攻めてきても大丈夫よ」ピーチ

「そうね考えすぎだわ、楽しく行きましょ」「ゼルダ

ゼルダの顔に安堵の笑顔が戻りピーチも安心したようだ。

「なあなあ、だれが勝つか賭けでもやらないか？当たったら一気に大金持ちだぜ！？」

楽しくお喋りしている女性たちにとてつもなく下品な男が話しかけ始めた。ワリオだ。

「ちょっとなあに？あなたと一緒にいると私達まで下品に見えるからあっちに言っていてちょうだい。」「ピーチ

「なんだよ！！せつかく俺様が誘ってやってるのによ！！俺様も仲間に入れてくれよ！！」「ワリオ

「でも今は私たちだけの時間を下さらない？私はピーチと一緒にゆつくりと試合を見たいから悪いけど後にしてね。」「ゼルダ

「あ！！そうかそうか俺様は所詮のけ者だよ！！あっちに行つてればいいんだろ！？」ワリオ

「もう分かったからあっちへ行つてよ。」「ピーチ

ピーチの言葉を聞いてワリオはふて腐れた様に2人から離れていった。…と見せかけて

「俺様をのけ者した罰だ！！喰らえ！！」（ぷう~~~~）ワリオ

ワリオは相手にされなかったことに対して怒って2人におならをか
けた。そして「ざまあ見る!!」と
吐き捨てて去っていった。

「きゃあ~~~~!!くっさあ~~~~い!!」ピーチ

「ケホッ、ケホッ、ひどい臭いですね」ゼルダ

2人がワリオに不満を漏らしているとスタジアムにアナウンスがか
かり始めた。

「レディースアンドジェントルマン!!今回も熱い戦いが幕を開
けたあー!!」アナウンス

「ふう、やっと始まったようね」ピーチ

「さあ、ではルールの確認です!!今回は8人制のトーナメントバ
トル!!組み合わせはこちら!!」アナウンス

マリオ	-	デデデ
カービィ	-	リユカ
ヨッシー	-	ピット
デイディー	-	リンク

「マリオとリンクは…決勝で当たることになるわね」ピーチ

「そうね、お互いに勝ち進むといいわね。二人の決勝が楽しみね。」
ゼルダ

そして第一試合の二人の選手が入場してきた。

「ひゃっほうー!!」マリオ

「やってやるぞい」デデデ

「さあ!ーお互い尋常に…。一回戦スタート!ー」アナウンス
試合が始まった。

「マリオー!頑張つてえ!ー」ピーチ

ピーチの応援に応えるようにマリオの猛攻が始まった。

「行くぞ!ーファイアボール!ー」マリオ

ボン、ボン、ボン、

「あちゃ、あちゃ!ー!何するぞい!ー」デデデ

マリオのファイアボールが炸裂し、デデデのガウンに燃え移った。

「見事ですね」ゼルダ

「おのれ〜。反撃ぞい!ー!喰らえワドルディぞい!ー」デデデ

デデデは力強くワドルディを投げつけ、まわりを驚かせた。

「でもやっぱりデデデさんも強そうね」ゼルダ

「マリオも厳しいかしら…」ピーチ

「なんのー!!」マリオ

マリオはワドルディに向けてスーパーマントを翻し、デデデにワドルディをぶつけて見せた。

「痛っ!! やっつけてくれるぞい!!」デデデ

「流石マリオね! 見事だわ」ピーチ

ピーチが感心するなかマリオに反撃をしようとデデデがハンマーを掲げた。

「ここからワシの反撃ぞーい!!」デデデ

だがそんな意気込みもむなしくマリオの更なる連弾に飲み込まれる一方だった。

「いくぞ!」マリオ

マリオは走って一気に接近したかと思うとスライディングを決めた。さらにそのままの勢いでメテオナックルを決め、そこからさらにヘッドバットをかました。

…だがまだ終わることなくスーパージャンプパンチへと流れるように決めていった。

「ぐっつ、もうここまでかぞい…」と呟きながらぶらつくデデデに對してピーチとあの男は大喜びだった。

「きゃ〜〜！！マリオってやっぱりすごいわね！！」ピーチ

「これなら決勝まで進めそうですね。」ゼルダ

「あら？何行ってるの？マリオは優勝するのよ！」ピーチ

「でもリンクも負けてないわよ。」ゼルダ

2人がのんびり話していると、2人の会話を切り裂くような声が地鳴りのように響いた。

「がっはっは！！金だ金だ！！マリオがスーパージャンプパンチを繰り出せばコインが飛んできて儲かるぞ！！行けー！！もう一発決めろー！！」ワリオ

「なんなの？まだここにいたの？ お願いだからあっちに行つてよ。あなた邪魔なの」ピーチ

「なんだなんだ？お前らもう一発お見舞いさせたいのかあ？」ワリオ

「いい加減にしないと怒りますよ？」ゼルダ

「へへーん！知るかあ！やっぱりもう一発喰らえ！！」（ブウウウウウ）ワリオ

またしてもワリオが2人をおならをかけて去っていった。

「ケホッ！！もういい加減にしてよ！！ケホッ！ケホッ！臭っ！！」
ピーチ

「こんな下品な人初めてです。ケホッ、ケホッ。」ゼルダ

「で、マリオは・・・、」ピーチ

ピーチは試合に目を向けるとマリオがデデデにとどめを刺しているところだった。

「とどめだ！！ファイア掌抵！！」マリオ

ポポーン！！

「ぐわああ」デデデ

「勝負あり！！ 勝者マリオー！！」アナウンス

「やったー！！マリオが勝ったあ！！」ピーチ

「ナイスファイト！」マリオ

「ぬぬ〜！おまえなかなか強いぞい！！このワシを負かすとは大した者だぞい」デデデ

そして選手たちはお互いに握手を交わしてスタジアムから去っていった。

「勝ちましたね〜。」ゼルダ

「よかったわ。つきもきつと勝ってくれるわ」ピーチ

だがそんな2人の会話を切り裂く下品な声がまた響いた。言うまで

も無くワリオだ。だが今回は何かが違う。ワリオが悲鳴を上げていた。

「ぐあああ！！離せよ！！離せよ！！離せよ！！」ワリオ

ピーチたちもおかしいとは思ったが散々酷い事をしたワリオを気にかけることはなく、ワリオはほったらかされてしまった。

しかも皮肉なことにワリオの異変に気付いていたのはピーチたちだけだったため、ワリオはだれにも助けってもらえなかった。

そしてワリオは助けってもらえなかった。

クレイジーハンドにさらわれても…

第1話 く平和な戦いからの異変く（後書き）

もし何かおかしい所や

口調がいまいちなどの

訂正するところがあったらどんどん行ってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2333y/>

大乱闘スマッシュブラザーズX 破壊の化身と希望の戦士たち

2011年11月5日06時07分発行